

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.1.24-30

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

7:1 イエスは、耳を傾けている民衆にこれらのことばをみな話し終わられると、カペナウムにはいられた。

7:2 ところが、ある百人隊長に重んじられているひとりのしもべが、病気で死にかけていた。

7:3 百人隊長は、イエスのことを聞き、みもとにユダヤ人の長老たちを送って、しもべを助けに来てくださるようお願いした。

7:4 イエスのもとに来たその人たちは、熱心をお願いして言った。「この人は、あなたにそうしていただく資格のある人です。」

7:5 この人は、私たちの国民を愛し、私たちのために会堂を建ててくれた人です。」

7:6 イエスは、彼らといっしょに行かれた。そして、百人隊長の家からあまり遠くない所に来られたとき、百人隊長は友人たちを使いに出して、イエスに伝えた。「主よ。わざわざおいでくださいませんかように。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。」

7:7 ですから、私のほうから伺うことさえ失礼と存じました。ただ、おことばをいただきせてください。そうすれば、私のしもべは必ずいやされます。

7:8 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私の下にも兵士たちがいて、そのひとりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ。』と言えば、そのとおりにいたします。」

7:9 これを聞いて、イエスは驚かれ、ついて来ていた群衆のほうに向いて言われた。「あ

なたがたに言いますが、このようなりっぱな信仰は、イスラエルの中にも見たことがありません。」

7:10 使いに来た人たちが家に帰ってみると、しもべはよくなっていた。

百人隊長はローマ兵であり、異邦人ですから、イスラエル人にとっては汚れた民と思われていた人々です。そのような人に対して「立派な信仰」とお褒めになったイエス様は、選民と異邦人という差別にとらわれていなかったことは確かです。救い主イエス様は全世界の人々のために存在されたのです。

この百人隊長の信仰は、「あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。」という謙遜とともに、イエス様の権威のもとにすべてがあるという確信でした。イエス様が全能の神であられることを表したのです。

私たちも、形や状況にとらわれずにイエス様の全能の権威を信じましょう。また自分のプライドを捨てて、イエス様の前にひれ伏して、みわざを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:11 それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちと大ぜいの人の群れがいっしょに行った。

7:12 イエスが町の門に近づかれると、やもめとなった母親のひとり息子が、死んでかたづけ出されたところであった。町の人たちが大ぜいその母親につき添っていた。

7:13 主はその母親を見てかわいそうに思い、「泣かなくてもよい。」と言われた。

7:14 そして近寄って棺に手をかけられると、かっついていた人たちが立ち止まったので、「青年よ。あなたに言う、起きなさい。」と言われた。

7:15 すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めたので、イエスは彼を母親に返された。

7:16 人々は恐れを抱き、「大預言者が私たちのうちに現われた。」とか、「神がその民を顧みてくださった。」などと言って、神をあげめた。

7:17 イエスについてこの話がユダヤ全土と回りの地方一帯に広まった。

イエス様が奇跡を行われたのには目的があります。もちろんイエス様は愛のお方ですが、愛するがゆえの奇跡であるなら、ほかにも多くの悲しむ人々には愛がなかったことになってしまいます。また全能の力を持った方ではありますが、それを示すことが目的であるなら、もっと多くの力を示しても良いはずですが。しかし弱いまま十字架に架られました。

イエス様がみわざをなされたのは、ご自分が旧約に予言されたメシヤであることを証しするためでした。そしてこの箇所は、そのメシヤが命の主であることを表した出来事です。さらに深い理解が進むなら、その命とは単に地上のものだけでなく、永遠の

命なのです。

ですから、今私たちが期待するのは、イエス様が命を与えてくださることであり、それが永遠の命であるということです。その永遠の命を明らかにするために、癒しや生き返りのわざもあるかも知れませんが、何より大切なのは永遠の命です。

その永遠の命が与えられていることは、生き返りよりもすばらしいことです。そのことに感謝し、また驚き、そして希望を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:18 さて、ヨハネの弟子たちは、これらのことをすべてヨハネに報告した。

7:19 すると、ヨハネは、弟子の中からふたりを呼び寄せて、主のもとに送り、「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちはほかの方を待つべきでしょうか。」と言わせた。

7:20 ふたりはみもとに来て言った。「バプテスマのヨハネから遣わされてまいりました。『おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも私たちはなおほかの方を待つべきでしょうか。』とヨハネが申しております。」

7:21 ちょうどそのころ、イエスは、多くの人々を病氣と苦しみと悪霊からいやし、また多くの盲人を見えるようにされた。

7:22 そして、答えてこう言われた。「あなたがたは行って、自分たちの見たり聞いたりしたことをヨハネに報告しなさい。盲人が見えるようになり、足なえが歩き、らい病人がきよめられ、つんぼの人が聞こえ、死人が生き返り、貧しい者に福音が宣べ伝えられています。」

7:23 だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」

7:24 ヨハネの使いが帰ってから、イエスは群衆に、ヨハネについて話された。「あなたがたは、何を見に荒野に出て行ったのですか。風に揺れる葦ですか。」

7:25 でなかったら、何を見に行ったのですか。柔らかい着物を着た人ですか。きらびやかな着物を着て、ぜいたくに暮らしている人たちなら宮殿にいます。」

7:26 でなかったら、何を見に行ったのですか。

預言者ですか。そのとおり。だが、わたしが言いましょ。預言者よりもすぐれた者をです。

7:27 その人こそ、『見よ、わたしは使いをあなたの前に遣わし、あなたの道を、あなたの前に備えさせよう。』と書かれているその人です。

7:28 あなたがたに言いますが、女から生まれた者の中で、ヨハネよりもすぐれた人は、ひとりもいません。しかし、神の国で一番小さい者でも、彼よりもすぐれています。

7:29 ヨハネの教えを聞いたすべての民は、取税人たちさえ、ヨハネのバプテスマを受けて、神の正しいことを認めたのです。

7:30 これに反して、パリサイ人、律法の専門家たちは、彼からバプテスマを受けないで、神の自分たちに対するみこころを拒みしました。

7:31 では、この時代の人々は、何にたとえたらよいでしょう。何に似ているでしょう。

7:32 市場にすわって、互いに呼びかけながら、こう言っている子どもたちに似ています。『笛を吹いてやっても、君たちは踊らなかった。弔いの歌を歌ってやっても、泣かなかった。』

7:33 というわけは、バプテスマのヨハネが来て、パンも食べず、ぶどう酒も飲まずにいと、『あれは悪霊につかわれている。』とあなたがたは言うし、

7:34 人の子が来て、食べもし、飲みもすると、『あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ。』と言うのです。

7:35 だが、知恵の正しいことは、そのすべての子どもたちが証明します。」

バプテスマのヨハネは、福音書を書いたヨハネとは別の人物です。彼はイエス様が誰であるかを明らかにしたのです。ですから彼は「おいでになるはずの方は、あなたですか。」と、イエス様がメシアであるかと尋ねたのです。そのイエス様の答えからも、イエス様ご自身が預言された救い主であることが分かります。

この世の権力者ほどイエス様を受け入れづらかったのが分かります。私たちは自分のプライドや立場よりもイエス様が救い主であるという事実を中心に据えて生きいきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:36 さて、あるパリサイ人が、いっしょに食事をしたい、とイエスを招いたので、そのパリサイ人の家にはいって食卓に着かれた。

7:37 すると、その町にひとりの罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられることを知り、香油のはいった石膏のつぼを持って来て、

7:38 泣きながら、イエスのうしろで御足のそばに立ち、涙で御足をぬらし始め、髪の毛でぬぐい、御足に口づけして、香油を塗った。

7:39 イエスを招いたパリサイ人は、これを見て、「この方がもし預言者なら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるか知っておられるはずだ。この女は罪深い者なのだから。」と心ひそかに思っていた。

7:40 するとイエスは、彼に向かって、「シモン。あなたに言いたいことがあります。」と言われた。シモンは、「先生。お話しください。」と言った。

7:41 「ある金貸しから、ふたりの者が金を借りていた。ひとりには五百デナリ、ほかのひとりには五十デナリ借りていた。

7:42 彼らは返すことができなかったので、金貸しはふたりとも赦してやった。では、ふたりのうちどちらがよけいに金貸しを愛するようになるでしょうか。」

7:43 シモンが、「よけいに赦してもらったほうだと思います。」と答えると、イエスは、「あなたの判断は当たっています。」と言われた。

7:44 そしてその女のほうを向いて、シモンに言われた。「この女を見ましたか。わたしがこの家にはいって来たとき、あなたは足を

洗う水をくれなかったが、この女は、涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれました。

7:45 あなたは、口づけしてくれなかったが、この女は、わたしがはいて来たときから足に口づけしてやめませんでした。

7:46 あなたは、わたしの頭に油を塗ってくれなかったが、この女は、わたしの足に香油を塗ってくれました。

7:47 だから、わたしは言うのです。『この女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。』」

7:48 そして女に、「あなたの罪は赦されています。」と言われた。

7:49 すると、いっしょに食卓にいた人たちは、心の中でこう言い始めた。「罪を赦したりするこの人は、いったいだれだろう。」

7:50 しかし、イエスは女に言われた。「あなたの信仰が、あなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

このパリサイ人は、人間の罪深さやきよさは比較できるもの、すなわちある人は罪深くある人はきよいと考えていました。また自分はきよい部類の人間だと自負していたに違いありません。彼はこの女性を「罪深い」とさばっていたのです。

これに対してイエス様は、多く赦された者は多く愛する…という意味のことを言われました。それでは大きな罪を犯して後に赦されてたほうが良いのでしょうか。そうではありません。誰もきよい者はないのです。自分の罪をどれほど自覚したか…なのです。誰でも自分の罪を神様の前に覚えるなら、その大きさに愕然とするのです。

そしてもしも世の人が言うような大きな罪を犯してしまっていたとしても、そこにはもっと大きな回復があることも確かなことです。恵のうちに悔い改め、そして赦された感謝によって、多く主を愛しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8:1 その後、イエスは、神の国を説き、その福音を宣べ伝えながら、町や村を次から次に旅をしておられた。十二弟子もお供をした。

8:2 また、悪霊や病気を直していただいた女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリヤ、

8:3 ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか自分の財産をもって彼らに仕えている大ぜいの女たちもいっしょであった。

8:4 さて、大ぜいの人の群れが集まり、また方々の町からも人々がみもとにやって来たので、イエスはたとえを用いて話された。

8:5 「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。蒔いているとき、道ばたに落ちた種があった。すると、人に踏みつけられ、空の鳥がそれを食べてしまった。

8:6 また、別の種は岩の上に落ち、生え出たが、水分がなかったので、枯れてしまった。

8:7 また、別の種はいばらの真中に落ちた。ところが、いばらもいっしょに生え出て、それを押しふさいでしまった。

8:8 また、別の種は良い地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」イエスは、これらのことを話しながら「聞く耳のある者は聞きなさい。」と呼ばれた。

8:9 さて、弟子たちは、このたとえがどんな意味かをイエスに尋ねた。

8:10 そこでイエスは言われた。「あなたがたに、神の国の奥義を知ることが許されているが、ほかの者には、たとえで話します。彼らが見ているも見えず、聞いていても悟らないためです。

8:11 このたとえの意味はこうです。種は神の

ことばです。

8:12 道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたが、あとから悪魔が来て、彼らが信じて救われることのないように、その人たちの心から、みことばを持ち去ってしまうのです。

8:13 岩の上に落ちるとは、こういう人たちのことです。聞いたときには喜んでみことばを受け入れるが、根がないので、しばらくは信じていても、試練のときになると、身を引いてしまうのです。

8:14 いばらの中に落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞きはしたが、とかくしているうちに、この世の心づかいや、富や、快樂によってふさがれて、実が熟するまでにならないのです。

8:15 しかし、良い地に落ちるとは、こういう人たちのことです。正しい、良い心でみことばを聞くと、それをしっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。

8:16 あかりをつけてから、それを器で隠したり、寝台の下に置いたりする者はありません。燭台の上に置きます。はいって来る人々に、その光が見えるためです。

8:17 隠れているもので、あらわにならぬものはなく、秘密にされているもので、知られず、また現われないものはありません。

8:18 だから、聞き方に注意なさい。というのは、持っている人は、さらに与えられ、持たない人は、持っていると思っているものまでも取り上げられるからです。」

クリスチャンでも、同じ礼拝メッセージを聞いても、成長しやすい人とそうでない人がいます。イエス様がその違いについて語っておられます。

みことばをどういう心で聞くかが左右するということです。

道ばたのような心とは、硬くて全く受け入れられない心です。いつかは…という訳にはいかず、直ぐにみことばは消え去ってしまいます。岩の上には砂のようなやわらかい土がありますから、芽が出ることもあります。水分が足りません。表面上は受け入れたようなそぶりを見せますが、実行の伴わない人がこれに当たるでしょう。

いばらが生えている土地は案外良い土です。しかし邪魔なものが多すぎます。素直な心で受け入れても、信仰以外に楽しみが多すぎて、信仰が後回しになっている人です。

実を結ぶ人は「正しい良い心でみことばを聞いて、…守り、耐えて、何倍もの収穫を得るのです。自分の状態をよく考えて、実を結ぶ者の習慣を身につけましょう。

「隠れているもので、あらわにならぬものは」ないので、私たちも信仰を明かにしましょう。「持っている人は、さらに与えられ、持たない人は、持っていると思っているものまでも取り上げられる」のですから、みことばをどのように聞か、その「聞き方に注意」しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

29日 土曜

ルカ



8:19 イエスのところに母と兄弟たちが来たが、群衆のためにそばへ近寄れなかった。

8:20 それでイエスに、「あなたのおかあさんと兄弟たちが、あなたに会おうとして、外に立っています。」という知らせがあった。

8:21 ところが、イエスは人々にこう答えられた。「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことばを聞いて行なう人たちです。」

8:22 そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。

8:23 舟で渡っている間にイエスはぐっすり眠ってしまわれた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、弟子たちは水をかぶって危険になった。

8:24 そこで、彼らは近寄って行ってイエスを起こし、「先生、先生。私たちはおぼれて死にそうです。」と言った。イエスは、起き上がって、風と荒波とをしっかりとつけられた。すると風も波も治まり、なぎになった。

8:25 イエスは彼らに、「あなたがたの信仰はどこにあるのです。」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「風も水も、お命じになれば従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

みことばをどのように聞くか…。それは何よりも「行う」ことです。そのような人をイエス様は「わたしの母、わたしの兄弟」と言ってくださいます。

弟子たちが嵐の中でイエス様に頼ったのは良いことでしょう。しかし、そこにイエス様がいるのに、「死にそうです」とはイエス様への信頼が足りないといってもよさそうです。

イエス様を呼び求めましょう。イエス様がおられ、問題に関わってくださると確信したら、安心して委ねましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8:26 こうして彼らは、ガリラヤの向こう側のゲラサ人の地方に着いた。
 8:27 イエスが陸に上がられると、この町の者で悪霊につかわれている男がイエスに出会った。彼は、長い間着物も着けず、家には住まないで、墓場に住んでいた。
 8:28 彼はイエスを見ると、叫び声をあげ、御前にひれ伏して大声で言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのです。お願いです。どうか私を苦しめないでください。」
 8:29 それは、イエスが、汚れた霊に、この人から出て行け、と命じられたからである。汚れた霊が何回となくこの人を捕えたので、彼は鎖や足かせでつながれて看視されていたが、それでもそれらを断ち切っては悪霊によって荒野に追いやられていたのである。
 8:30 イエスが、「何という名か。」とお尋ねになると、「レギオンです。」と答えた。悪霊が大ぜい彼にはいていたからである。
 8:31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。
 8:32 ちょうど、山のそのあたりに、おびただしい豚の群れが飼ってあったので、悪霊どもは、その豚にはいることを許してくださいと願った。イエスはそれを許された。
 8:33 悪霊どもは、その人から出て、豚にはいった。すると、豚の群れはいきなりがけを駆け下って湖にはいり、おぼれ死んだ。
 8:34 飼っていた者たちは、この出来事を見て逃げ出し、町や村々でこの事を告げ知らせた。
 8:35 人々が、この出来事を見に来て、イエスのそばに来たところ、イエスの足もとに、

悪霊の去った男が着物を着て、正気に返って、すわっていた。人々は恐ろしくなった。
 8:36 目撃者たちは、悪霊につかわれていた人の救われた次第を、その人々に知らせた。
 8:37 ゲラサ地方の民衆はみな、すっかりおびえてしまい、イエスに自分たちのところから離れていただきたいと願った。そこで、イエスは舟に乗って帰られた。
 8:38 そのとき、悪霊を追い出された人が、お供をしたいとしきりに願ったが、イエスはこう言って彼を帰された。
 8:39 「家に帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」そこで彼は出て行って、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、町中に言い広めた。

イエス様が悪霊を追い出すのは、旧約聖書の救い主の預言の成就で、ご自身が救い主であることを証しているということです。悪霊は人間よりも霊的なことを知っていますから、「いと高き神の子、イエスさま。」ということも知っていたのです。クリスチャンには霊的な権威がありますが、それはあくまでもイエス様の権威によるものですから、私たちは謙遜でなければなりません。
 イエス様が悪霊に「底知れぬ所に行け」とは言わなかったのは、まだそのときが来ていないからです。イエス様の十字架によって人々を救いに導き、その上で万物をさばくのです。そうでないと人類は全て滅びに至ってしまいます。
 そのような偉大な御計画の中でも、主は人をあわれんで、悪霊から解放してくださいました。主の御計画の中でも、私たちは大いに恵を受けるのですから、安心して主の計画に参画して生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

